

全力で突っ走れ！ 折乃笠部長

富士山歴訪の旅

2. 富士山一周徒歩の旅 2013年

【14】まとめ

目次

- 【1】はじめに
- 【2】全行程図
- 【3】大月～富士吉田 3月 9日(土)
- 【4】富士吉田～御殿場 4月27日(土)
- 【5】御殿場～沼津 5月 3日(金)
- 【6】沼津～富士 8月10日(金)
- 【7】富士～白糸の滝 8月17日(金)
- 【8】白糸の滝～本栖湖 10月 6日(日)
- 【9】本栖湖～河口湖 10月13日(日)
- 【10】河口湖～富士山駅 10月19日(土)
- 【11】御殿場～富士宮浅間大社写真リベンジⅠ 12月 1日(日)
- 【12】富士宮浅間大社～本栖湖写真リベンジⅡ 12月 7日(土)
- 【13】沼津 芹沢光治良 朗読会 12月 7日(土)
- 【14】まとめ

【14】まとめ

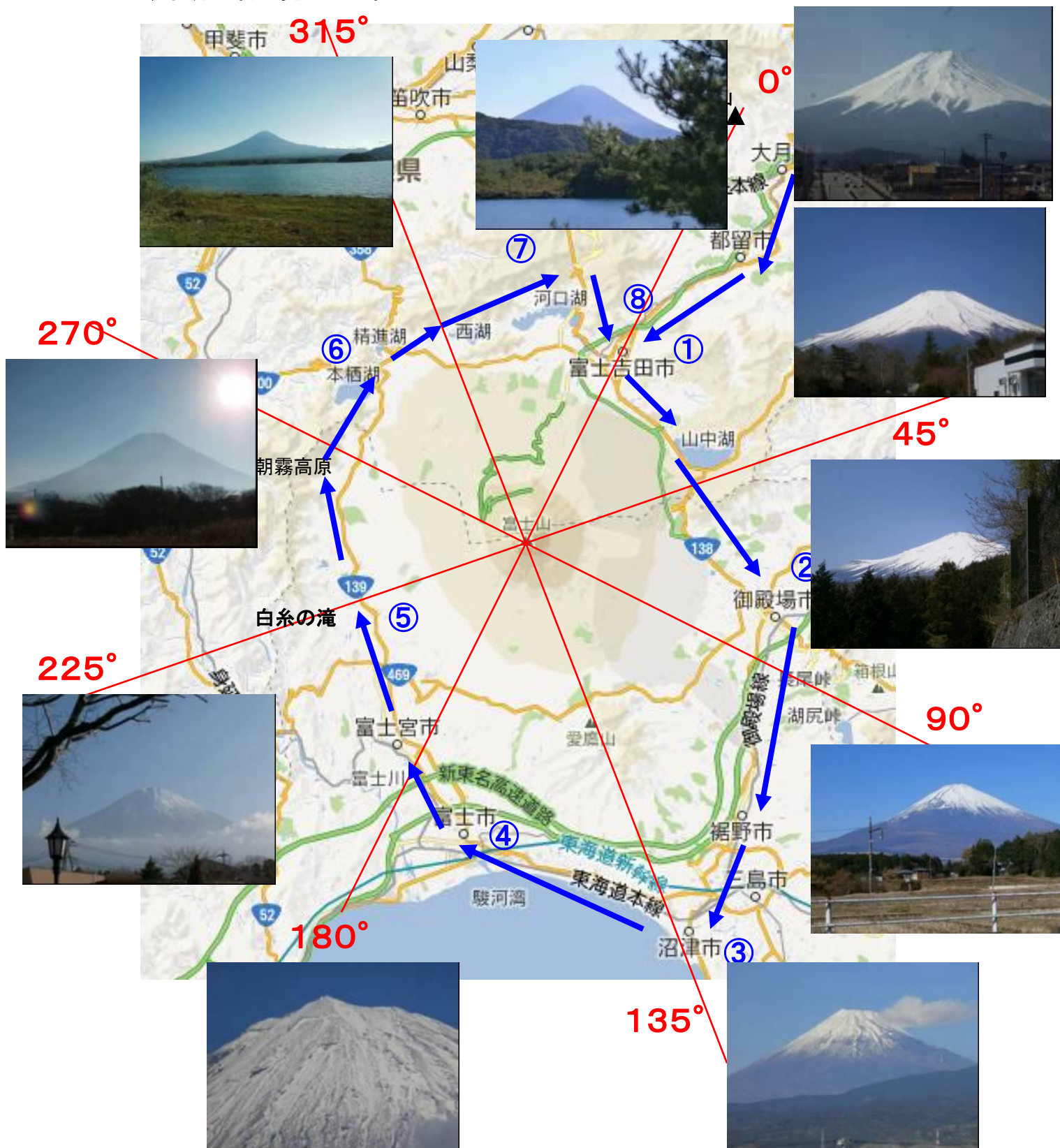
当初、宣言した富士山一周徒歩の旅の目的は十分達成できた。

①富士山の美しさを山梨県・静岡県の各地で再確認

②全360°で5°毎富士72景調査

何事も一方向から見て判断してはならない。全方角から見るべし。

且、自分の目で見るべし。



③全180kmを徒歩で挑戦

今回の徒歩の旅は、常に右方向に富士山を意識しての旅となった。
先回の徒歩の旅『秀麗富岳十二景を訪ねて』の19峰の登山とは異なり、
海あり山あり高原あり湖あり街あり村あり牧場あり美術館あり文学館ありの
非常にバラエティーに富んだものとなった。

大月の自宅を出発し富士吉田へ。普段の生活道路であるが、改めて歩いてみると、実にいろいろな物を五感と足で感じることができた。途中途中のそれぞれの地域で、御当地性、文化、生活を感じることができた。

富士吉田から山中湖へ。山中湖までの哲学の路を物思いに耽りながら歩いた。
山中湖湖畔を湖の遥か向こうの山々を見ながら湖の不思議を考えながら歩いた。
静岡県と長野県境の坂道はきつかった。途中、バイク、自転車、ジョギング
する人たちとの挨拶はとても爽やかな気分にしてくれた。

御殿場から沼津へ。箱根を左に見ながらの高原の徒歩の旅は心晴れ晴れのピクニック気分であった。時々御殿場線の2両連結の電車がやって来ては去っていく光景は鉄道評論家の小生にとっては最高の光景であった。所々に咲く花々はとても美しかった。

沼津から富士へ。海沿いを西に向かって歩いた。山に住む小生にとって、久々の海の景色はとても新鮮であった。海平線を眺めて改めて地球は丸いということが確認できた。富士駅手前で熱中症になった。炎天下の中、歩くことの危険性を体で体験した。一步一步の歩の重さを知った。

富士から白糸の滝へ。富士市の街並み、富士宮市の街並みは、180°対面にある富士吉田市の街並みと大きく異なった。静岡県固有のゆっくりとした時間が流れているような気がした。生活する人たちの歩く速度や会話する速度がゆっくりしていた。そして、富士山の形も全然異なり、それを毎日見ながら生活する人々も大きく影響されるだろうと思った。白糸の滝は遠くから見ても優雅に見えた。

白糸の滝から本栖湖へ。朝霧高原を思いっきり堪能した。まさしく日本を代表する高原である。牧場の牛達が後姿と田舎の香水と牛乳で歓迎してくれた。ここでも歩いてみないと発見できない事（特に臭覚）がいっぱいあった。

本栖湖から河口湖へ。本栖湖、精進湖、西湖、河口湖と連続して歩いた。それぞれの湖固有の水の色、周りの景色との調和、観光に来る人たちの人種などなどを比較することができた。一番興味深かったのはそれぞれの湖と富士山の調和である。どのシーンも絵になるすばらしいものであった。

河口湖から富士吉田へ。ラストラン。富士山の初冠雪に感動しながら湖畔をゆっくり歩いた。湖畔にはたくさんの写真の題材となる景色があった。ゆっくり歩くとゆっくりした時間が流れゆっくりした景色を見ることができた。

全体と通して感じたことは空の色と雲の形。歩きながら上を見上げると必ず空がある。自分の気持ち次第で如何様にも見える。物事は何でも気持ち次第であると改めて思った。

相田みつを

『しあわせは いつも じぶんのところが きめる』

④行き帰り、鉄道とバスの旅を楽しむ

今回の旅は、鉄道とバスを使用したことも大きな楽しみであった。

富士急には実に8回も乗っている。毎回乗る度にいろいろな景色や出来事が楽しめた。

ゴージャスな小田急のロマンスカーにも乗った。内装のセンスの良さと乗り心地の良さが印象的だった。

東海道本線普通列車には何度も乗った。茅ヶ崎以西では東海道本線とはいえどもローカル色豊かであった。

八王子と茅ヶ崎を結ぶ相模線は非常に便利なルートであることを初めて知った。熱海、伊豆、沼津方面に行くにはベストである。近代化もされている。

富士から甲府まで身延線普通列車に乗ったが、まあ遅いこと。カーブが急である事や単線の為上り列車との行き違いによる停車時間が長い事で3時間以上もかかったしまった。富士駅発富士山駅行路線バスがお勧めである。

今回、普段あまり乗らない地方路線バスにも何度も乗った。

非常に感心したのは2時間以上走っても予定時刻に着くことである。

興味深いのは、バスの中でのその土地土地の人たちの会話である。思わず耳を傾けてしまった。方言の中にその土地の歴史みたいなものが感じられた。

鉄道やバスもゆっくりした気持ちで乗っていると五感でいろいろな事が感じられるものである。行き帰り、鉄道とバスの旅を楽しむことは達成できた。

⑤それぞれの御当地のB級グルメを楽しむ
富士山の廻りのB級グルメを十分楽しむことができた。
それぞれに個性があって、甲乙付けがたい。
全てがお勧め品である。



鳴沢村 センドそば



富士山 もちぶた串焼き



富士山 牛タンバーガー
富士まりも汁



朝霧高原 牛乳



富士吉田 吉田のうどん



白糸の滝 いわなの塩焼



御殿場 水菜カレー



まかいの牧場 牛乳



長泉町 あぶらそば 餃子



御殿場 みくりやそば



富士宮 やきそば



御殿場 御殿場ラーメン

⑥まとめ

目標と定めた項目に対し

◆有言実行

最初に宣言した目的①～⑤は完全に実行できた。

◆何事にも目的を持ってチャレンジする。常に歩くこと。

いろいろな事に対し興味を持ってチャレンジした。

たとえ炎天下だろうが、氷点下だろうが、立ち止まらず常に歩いた。

失敗（天候により富士山が見えない）したら、再チャレンジ（リベンジ）

すれば良い。

◆富士の山から生きることの意義を覚えてもらう。

清く！ 強く！ 美しく！

何事も一方向から見て判断してはならない。

『富士山一周徒歩の旅』は、小生にとって人生の中の貴重な感動巨編となった。

成せばなる、成さねばならぬ、何事も。

そして、新たなチャレンジへ続いていく。

完